

学校だより

Vol.

119

2025年11月発行
(2025.4~2025.9)

Contents

- 02 特集① いわきの自然 ふしぎ発見！
- 04 特集② ソーシャルクリエーション
研究会に注目！
- 06 インターンシップ報告
- 11 校内体育大会
- 12 学生の活躍
- 15 国際交流
- 16 アントレプレナーシップの実践
- 18 TOPICS
- 22 校内学習スペース・憩いの場
- 24 地域貢献
- 25 三主事・専攻科長あいさつ
- 26 各科の近況



独立行政法人国立高等専門学校機構

福島工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Fukushima College

いわきの自然 ふしぎ発見!



本校では、2年生を対象に、「課題を見つける」「計画を立てる」「調査する」「深く考える」「文章にまとめる」「報告する」「発表する」という研究をするために必要とされるプロセスを、自らが、またグループ活動のなかで経験することで、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ」ことを目的とした「ミニ研究」という科目を設定しています。

今年度、山田研究室では、「いわきの自然 ふしぎ発見!」というテーマでミニ研究を行っています。その中でも以前から取り組んでいる「鳴き砂」について山田研究室でミニ研究を行っている学生さんに話を伺いました。



海岸での鳴き砂調査

トヨタソーシャル
フェスに参加



ペットボトルのふたを使用し
作成したキーホルダー



いわき駅前でのイベント参加

山田研究室でミニ研究を行っているみなさんに話を伺いました。



機械システム工学科2年
やまもと たける
山本 孟



電気電子システム工学科2年
ひるた ゆうだい
蛭田 佑大



ビジネスコミュニケーション学科2年
おたに まな
大谷 舞奈



化学・バイオ工学科2年
ほりこし まゆ
堀越 方由

Q 鳴き砂とはなんですか

山本) 鳴き砂とは、砂の中にある石英がこすれて音が鳴る砂のことです。砂が鳴く（音が鳴る）には、砂の大きさが一定で不純物が少ないことが条件です。日本海側では多く見られますが、太平洋側にはあまり分布していないです。いわきの海岸では、豊間海岸が鳴き砂が分布している海岸として有名です。しかし、砂の大きさがばらばらで石英の割合が少ない新舞子海岸などは鳴きません。

Q 今まで行ってきた活動内容、印象に残っていることはなんですか

大谷、堀越) 鳴き砂を守る会の活動に参加しています。四倉海岸では、トヨタソーシャルフェスに参加し、ごみ拾いなどの活動をしています。

参加してくれた人と鳴き砂の分布を調べて、海岸をきれいにすれば砂が鳴くようになることを体験したりしました。

今までの活動を通して一番印象に残っているのは、豊間海岸で最初に鳴き砂の音を聞いたことです。一番砂が鳴っていたので、印象に残っています。

Q 鳴き砂に関わる活動を継続している先輩を見てどう感じていますか

蛭田) トヨタソーシャルフェスに参加した際に、以前ミニ研で鳴き砂に関わっていた先輩も参加していました。ミニ研究として鳴き砂に関わった後も意欲的に鳴き砂に関わっているのを見て、刺激を受けたり、自分もミニ研究が終わっても鳴き砂に関わっていきたいと思いました。

Q ミニ研でこのテーマを選んでよかった点、勧めたい点は何ですか

大谷) 自然環境を学ぶことはもちろん、「鳴き砂を守る会」の方々と関わることが出来たり、公開講座等を通じて鳴き砂について小さい子に教えたりすることで人との関わりを学ぶことができ、それが社会経験という形で良い経験ができることです。

堀越) 自分から自然に触れに行く経験ができたり、人との関わりを持てることが魅力だと思います。

山本) 社会経験を積むことができるし、いわき市内の様々な場所へ行くことができアクティブな活動をすることができ、活動を通じて自然に関する知識を身に着けることができることが良い点だと思います。

蛭田) いわきにいても知らなかった、いわきの新しい魅力を知ることができそれを実際に見ることができるという点がおススメです。また、様々な学科の人達と交流が持てるのが魅力です。

Q 最近行った活動は何ですか

山本) 海岸のごみ拾いを、ごみ拾いだけで終わらせないようにする活動を行っています。

現在は、ペットボトルのふたを細かく切りレジンを流し込み、キーホルダーを作成しています。今後は、海岸でのごみ拾いで拾った色のついたプラスチックを使用し、活用できないか考えています。

指導教員コメント



電気電子システム工学科
准教授 山田 貴浩先生

いわき市では四倉海岸、豊間海岸は鳴き砂が分布しています。勿来海岸も北の方では鳴き砂が分布しています。海流、海の沿岸の地形、粒の大きさ、鉱物の割合、汚れの多さなどの多くの条件をクリアした海岸にのみ鳴き砂が分布しています。粒の大きさによって、音の大きさは変わります。粒が小さいと音は高く、大きいと低い音になります。また、砂を鳴らす棒の太さを変えることで音の高さは変わります。棒の太さが細いと音は高く、太いと音は低くなります。

震災の津波の影響で、地上の油などのごみをかぶってしまい、一時期鳴かなくなっていました。しかし、震災から10年以上たったことで、海水で砂の汚れが落ち、砂が再び鳴くようになりました。今後は鳴き砂だけではなく、夏井川の川沿いの植生・水生生物の調査をする予定です。

ソーシャルクリエイション研究会に 注目!



本校には、運動部や文化部、高専ロボコンに向けて活動するロボット技術研究会など、30を超える課外活動団体があります。その中でも今回は、昨年承認されたばかりのソーシャルクリエイション研究会にスポットを当てました。現在のメンバーは10名ほどですが、最近のアントレプレナーシップ教育推進の追い風もあり、将来が楽しみな研究会です。学内で注目度の高まるソーシャルクリエイション研究会メンバーに話を伺いました。



令和6年度磐陽祭縁日の様子



企画会議の様子

指導教員インタビュー



ビジネスコミュニケーション学科
准教授 大仁田 香織先生

Q 学生と研究会を立ち上げようと思ったきっかけは？

何かを作り出すことは、社会人になるとみんなが行うこと。民間企業で働いても、行政職でもNPOでも、ゼロから企画する力が必要です。ぜひ学生のうちにそういう経験をしてほしい。学年学科を超えて得られる学びを、研究会を通して体験してほしい。

令和6年2月に学校の承認を得て結成されたソーシャルクリエーション研究会のみなさんに話を伺いました。



Q ソーシャルクリエーション研究会の名前の由来を教えてください。

吉田) この研究会は地域創生をテーマにしていました。社会の(ソーシャル)創造(クリエーション)、つまり、地域貢献や社会との関わりをテーマにした研究会ということかなと。

大山) ソーシャル(社会的な)を狭い意味でも広い意味でも捉えています。学校の中での活動も、地域を巻き込んだ活動もできるような研究会にしたいと思っています。

Q これまでにどのような活動を行っていますか？

野崎) 昨年度は、磐陽祭でF-REI(福島国際研究教育機構)とのコラボ企画を行いました。F-REI担当者との会議を重ねて、縁日を主催しています。当日はF-REI職員から来場者にF-REIについての説明もありました。縁日へ立ち寄ってもらいながら、来場者にF-REIの活動を知ってもらうことができたと思います。縁日用にオリジナル景品も作りました。

Q これからの活動予定はありますか？

野崎) 12月の授業最終日に学内イベントを計画しています。いまは、アイデア出しをしている段階です。実現に向けて取り組んでいます。

大山) (他に) 地域情報を発信するSNS活動も検討しましたが、頓挫しました。

吉田) 若者に見てもらえるSNSを地元中小企業と一緒に提案できたら地域活性化につながるのではないかと話しをしていました。ただ、企業との連携や選び方、情報発信をしている既存企業とのすみ分けなどが難しく、改良案を作っていければと考えています。

Q 実現しなかった企画もたくさんありますよね？

大山) 恐竜の着ぐるみを着てレースをしたら面白いんじゃないかとかありました。基本的にみんな面白さを第一に置いているので、最初に、ふざけ過ぎかなというものと現実的なもので振り分けられる感じです。一時期、着ぐるみに魅了されていて、レースやりたい、カフェやりたい、文化祭で練り歩きたいとか。

渡邊) 12月のイベントで花火を打ち上げるというアイデアもありました。クリスマスの夜空に一発数万円する花火をドカンと上げる。そういうことができればいいなと思ったんですけど、お金の問題が。

大山) 家庭用の吹き出し花火になりました。

酒井) F-REIさんとのコラボ企画では、当日限定の広告塔VTuberを作ったらいいんじゃないかという話がありました。会議ではウケたんですけど、上層部の方に、はねられましたね。

Q 今年度の磐陽祭では何か企画していますか？

吉田) 意外とないものとして、休憩所を作る予定です。ただの休憩所ではなくて、楽しいグッズをいろいろ用意しています。例えば、いわきの有名な場所をモチーフにした塗り絵や間違い探し、おみくじも。

酒井) あとは、みんなで作るデジタルアート。校内の至る所に置いたQRコードから、画像を送ってもらって、それをモザイクデジタルアートにするというものです。プログラムを自分で組みました。保存された画像を自動で取得して、モザイクアートにする。ついでに自動更新も付けました。

Q たくさんのアイデアが出て楽しそうですね。後輩向けに研究会のお勧めポイントを教えてください。

大山) 学科がミックスされているのは大きな魅力です。部活に入っていないと同学年のつながりができません。いまはビジコミのメンバーが多いけれど、酒井君のプログラミングの知識であったり、機械科のハードの知識が、私たちだけでは辿り着けない場所に連れて行ってくれます。

吉田) メンバーがすごく面白くて、何を言っても否定しません。思い浮かんだアイデアを酒井君のように技術系の人たちが形にしてくれたりします。

渡邊) 現在進行形で、いろんなことが形になっていくことに刺激を受けられます。これまで学内の研究会というと工学系が主体のものが多かったのですが、ここではビジコミが主体になれるます。

酒井) どれだけふざけた案も通せる環境があります。技術系の研究会だと、現実的でない、突拍子もないアイデアは出しにくい面もあります。

本校では、4・5年生と専攻科1年生に、「校外学習」「インターンシップ(A.B.C)」などの科目を設定し、企業などの協力を得て、インターンシップを実施しています。校外、実務の場に身を置くことで、技術者の役割を認識すること、学校で習得している知識が実社会でどのように活用されているかをそれぞれ学生が理解することを目的としています。

本校では、こうした経験を今後の学習に活かし、社会人として必要とされる知識などを卒業までに身につけるように、教育と指導を行っています。



- Q1：今回の実習先を希望した理由を教えてください。
 Q2：どのような内容を実習しましたか？
 Q3：実習で学んだこと、気づいたこと等の感想を教えてください。

機械システム工学科 4年 八杉 旭

実習先企業名：ムラテックCCS株式会社
 実習期間：8月18日～8月22日（5日間）

A1：ムラテックCCSのインターンシップに参加した理由は、学校で行われた企業説明会を通じて、フィールドサービスエンジニアという職種の仕事内容や充実した福利厚生に魅力を感じたからです。技術力を活かして顧客の課題解決に貢献できる点に惹かれ、仕事内容を見学・体験することで自分の成長につながると考え、実習先として希望しました。

A2：インターンシップでは、工作機械や物流機械を用いた実習を行いました。ローダーチャックの分解・組付けを通じて機械構造を学び、スタッカークレーンや無人搬送車のトラブルシューティングを体験しました。点検作業にも取り組み、現場での対応力や技術的な知識の重要性を実感しました。実際の機械に触れることで、フィールドサービスエンジニアとしての業務理解が深まりました。

A3：ムラテックCCSのインターンシップでは、工作機

械や物流機械の点検・トラブルシューティングを間近で見学・体験することで、フィールドサービスエンジニアの具体的な業務内容や責任の重さを実感できました。現場では技術力だけでなく、柔軟な対応力や安全意識も重要であることに気づきました。また、高専出身の社員の方から直接お話を伺う機会もあり、進路選択や将来の働き方について具体的なイメージを持つことができ、大変有意義な経験となりました。



電気電子システム工学科 4年 佐藤 碧

実習先企業名：株式会社カイジョー
 実習期間：8月25日～8月29日（5日間）

A1：もともと半導体に興味を持っていたので、キャリアサポートの絞り込み機能で、「半導体」で検索していたところ、株式会社カイジョーさんが検索に引っかかったのが会社を知ったきっかけでした。募集ページを調べていくうちに、超音波洗浄実験という他では見られない実習内容に興味を惹かれ、ほかに、学生を大事にしてくださる雰囲気が自分に合っていると感じたため、希望しました。

A2：初日から2日目にかけて、超音波洗浄機を用いて洗浄実験を行い、結果を評価するという実習を行いました。また、2日目の最後には、会社の皆さんの前で実習報告も行いました。3日目は機械設計の実習として、図面から情報を読み取り、3DCAD上にモデルを作成する実習を行いました。4日目は、電子工作キットを用いた創作演習と、タイマーICを用いたアナログ回路実習を行いました。最終日は、マイコン(Raspberry Pi 4)を用いたプログラミング実習を行いました。

A3：最も印象に残っている実習は超音波洗浄機の洗浄評価実習です。この実習は、共通の目標はあるものの、評価までの過程や、条件設定などは自分たちで思考し実践するというものでした。こういった試行錯誤のプロセスは今後どんな場面でも必要になってくると思うので、良い経験ができたと感じました。また、実習中はグループで活動することが多くあり、必然的に他の学校の学生とコミュニケーションをとる必要がありました。このような経験も、将来社会に出て多様な人と協力する際に大いに役立つと感じました。



化学・バイオ工学科 4年 山田 遥

実習先企業名：あすか製薬株式会社 いわき工場

実習期間：9月8日～9月12日（5日間）

A1：私は将来、健康や命に関わる創薬や安心安全に薬を製造する製薬業界での活躍を志しています。中でも、女性医療に特化した分野で高い専門性を持つあすか製薬の取り組みに感銘を受けました。実際の業務を体験しながら、働く方々の姿勢に直接触れることで、より深く製薬業界への理解を深めるとともにこれからの自分に必要なスキルや素養を知るきっかけにしたいと考えたため今回の実習先を希望しました。

A2：5日間の実習では、座学や工場見学を通して製薬工場の全体像と品質保証体制を理解しました。製造実習では秤量・造粒・混合・打錠を体験し、品質管理との関わりを学びました。品質試験実習では性状試験やHPLCなどを行い、医薬品の品質を多角的に評価する方法を理解しました。最終日には試験結果の解析と総括を行い、実習全体を振り返りました。

A3：中学生の頃から興味を持っていた製薬会社の現場を体験でき、非常に楽しく貴重な経験となりました。医薬品1錠を製造するために多くの人と厳格な管理が関わることを知り、その重要性を改めて実感しました。携わる一人ひとりの責任感が人々の健康や命を守ることに直結していると感じ、強く感銘を受けました。学校での学びが実際の現場とつながっていることを実感できたため、この経験を糧に今後の学習にも一層意欲的に取り組んでいきたいです。



都市システム工学科 4年 生田目 将吾

実習先企業名：清水建設株式会社

実習期間：8月25日～8月29日（5日間）

A1：将来の目標である施工管理技士としての業務内容をしっかりと理解して、社会人としての基本的な姿勢や責任感を身につけること、それによる自分の将来像をより具体的にすることを目標とする。また、スーパーゼネコンならではの大規模で迫力のある工事現場を体感し、最先端の技術や工法を学ぶと共に、現場で発生する様々な課題に対して、どのような対策を講じているのかを勉強する事で、実践的かつ理論的な知識と視野を広げる機会としたいと考えたからです。

A2：5日間のインターンでは、初日に工事概要を学び、2～4日目には掘削や土留め、コンクリート打設などの現場を見学し、レベル測量も体験した。3日目にはVRによる安全講習やBIM・CIMを活用したDX講座を通して最新技術を学び、4日目は若手から主任クラスの社員

との座談会で仕事の実情やキャリア形成への理解を深めました。最終日は成果発表と意見交換を行い、施工管理の役割と業界課題への意識が一層高まりました。

A3：この5日間の実習を通して、施工管理の業務内容や安全・品質管理の重要性を深く理解できた。現場では多くの専門職が連携し、一人ひとりの仕事全体の品質と安全に直結していることを実感しました。また、学校で学んだ知識が実際の施工でどのように活かされているかを具体的に理解し、理論と実践を結びつける力を養うことができました。さらに、現場体験を通じて責任の重さを感じ、将来は施工管理職として現場を支えるという目標がより明確になりました。



ビジネスコミュニケーション学科 4年 氏家 成

実習先企業名：株式会社エリクソン・ジャパン

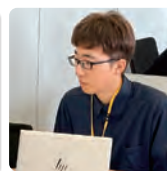
実習期間：8月25日～8月29日（5日間）

A1：私がエリクソン・ジャパンでのインターンシップを希望した理由は、日本で2020年春からサービスがスタートした次世代の通信インフラ5G（第5世代移動通信システム）などの情報技術が人々の生活にどのように役立っているのか、学校の授業で学んだことが、社会でどのように結び付いているのかを肌で感じたいと考えたからです。また、エリクソン・ジャパンでは、「スピークアップ」という従業員が自由に意見を発信できるオープンなコミュニケーションを推進しており、自分が将来働く前に「スピークアップ」を体験したいと思ったからです。

A2：インターンシップでは、まず商用携帯基地局の運用ロールプレイを行い、データ設定、顧客への電話対応を行いました。次に、演習として政府データをもとに、生成AIを用いたプログラミングを行い、グラフを作成し

ました。また、仮想マシンの作成、コマンド入力、通信速度の測定などを体験し、技術を学びました。最終日には、活動のまとめやチームでのプレゼンテーションを行いました。

A3：本インターンシップを通して、情報技術が実生活に役立っていることを知ることができました。インターンシップの活動の中で、特に難しかったのは、無線基地局の運用で、コマンド入力などのシステムの正確性が重要であることを学びました。実務では、より専門的な知識が必要であることを痛感し、専門分野の学習を今まで以上に進めていこうと思いました。



産業技術システム工学専攻 生産・情報システム工学コース 1年 小野 慶吾

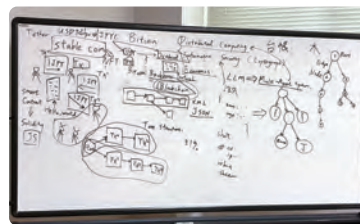
実習先：広島大学大学院先進理工系科学研究科

実習期間：9月1日～9月12日（10日間）

A1：大学院への進学をするか否かで迷っていたときに、とりあえず実際に行ってみようと思い、興味のある研究テーマの先生へ連絡を取りました。テーマは今の自分の専攻とも違う分野でしたが、先生が快く受け入れてくださり実習に至りました。研究室の雰囲気を自分の肌で感じることができ、院生の先輩方とお話する機会が沢山あったおかげで進路についてしっかりと考えることができました。

A2：研究室ではブロックチェーンのセキュリティについて勉強しました。具体的には、Ethereum（イーサリウム）というブロックチェーンのプラットフォーム上で動くスマートコントラクト（プログラム）の脆弱性について調査しました。Ethereum上で使用されるsolidityと呼ばれるプログラム言語が引き起こすバグや、人為的なミスによって引き起こされたセキュリティ事例についても調査し、9日目に研究室の皆さんの前で発表しました。

A3：実習先の研究室にはコアタイム（主な活動時間）がなく、院生の先輩方それぞれが自由に研究活動に取り組んでいることが印象的でした。先輩曰く、「大学院ではその人次第で忙しくも楽にもできる」とのことです。実際にのびのびと過ごしている人や常に作業している人とそれぞれ様々な過ごし方をしていました。自分の将来像を考えていく上でとても貴重な体験になったと思います。



産業技術システム工学専攻 エネルギーシステム工学コース 1年 齊藤 汐音

実習先企業名：株式会社クレハ

実習期間：8月25日～9月5日（10日間）

A1：私は、製品を製造する設備の設計と、高電圧を扱う強電分野に強い興味を持っています。株式会社クレハは、この両分野の設備を自社で運用しており、幅広い技術を体験できる環境だと考えました。また、そのために多くの社員の方から直接話を聞くという目標も立てました。

A2：実習では、変圧器の更新計画に関する設計業務を体験しました。具体的には、更新依頼内容の確認から始まり、要件の決定、現場調査、類似案件の調査、具体的な工事設計、そして工期と予算の積算までの一連の流れを

学びました。このプロセスを通じて、設計業務が幅広い知識と、多くの関係者との連携によって成り立っていることを実感することができました。

A3：この実習で最も印象的だったのは、設計業務の複雑さと奥深さです。変圧器の設計を通じて、単に技術的な要件を満たすだけでなく、安全基準や法規制の順守、さらには将来的なメンテナンス性までを考慮した長期的な視点が必要であると学びました。また、多くの社員の方とお話する機会をいただき、他部署との密な連携が業務効率を向上させ、組織全体の成長を支えていることを実感しました。



産業技術システム工学専攻 化学・バイオ工学コース 1年 助川 花怜

実習先：東北大学多元物質化学研究所 笠井研究室

実習期間：9月16日～9月20日（5日間）

A1：共同研究の成果報告と高専では出来ない実験の実施、大学院での研究活動を見学することを目的とし希望しました。

A2：事前に作製したプロドラッグをナノ粒子化し、細胞増殖抑制活性評価とSEMを用いて粒子の撮影を行いました。細胞増殖活性評価では、HCT-116を使用し播種からアッセイまで行いました。SEMを用いた撮影では、粒子の形状やようすを観察しました。

A3：細胞実験やSEMの撮影は高専では出

来ないため初めてやることが多く、大変学びの多い1週間でした。

高専卒業後の進路を改めて考える機会をいただいたことに感謝いたします。



産業技術システム工学専攻 社会環境システム工学コース 1年 野村 倫也

実習先企業名：株式会社 奥村組 技術研究所

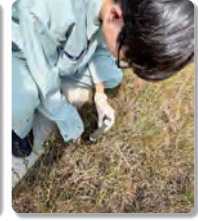
実習期間：9月24日～9月26日（3日間）

A1：現在、大学院で研究を続けたいと考えており、その一環として実際の研究所での業務に触れる経験を積みたいと思っていたところ、研究室の先生から奥村組のインターンシップをご紹介いただきました。研究所での実験や調査、現場見学など、幅広く学べる点に魅力を感じ、自分の研究に生かせる視点や考え方を得られる貴重な機会だと考え、本実習先を希望しました。

A2：初日は屋外用収音マイクロホンの性能評価実験を行い、AIによる音の識別精度を確認するとともに、天候条件など異なる環境下での性能の違いについて検証しました。2日目は希少植物のサンプリングと生育環境調査に参加し、自生地や保全区域を含む4地点を巡って調査手法を体験しました。最終日は研究所内の施設見学と社員面談を実施しました。

A3：本実習を通して、研究開発が社会で求められる技術へと発展し、実現場で活用されるまでの過程を学ぶこと

ができました。研究所では耐震・免震・制振技術に加え、室内環境や省エネルギー化に関する研究も進められており、安全性の確保と環境負荷の低減を両立させる取り組みが重視されていることを実感しました。様々な業務や活動を体験させていただき、職場の雰囲気を実際に感じる良い機会となりました。



ビジネスコミュニケーション学専攻 ビジネスコミュニケーション学コース 1年 大山 瑞稀

実習先：IUT Le Havre（海外インターンシップ）

実習期間：9月1日～11月14日（75日間）

A1：海外での生活に挑戦したいという思いに加え、研究分野の最前線で学ぶことができる環境があることから希望しました。また、本科3年時に訪れたLe Havreの美しい街並みも印象に残っており、専攻科進学を決めた大きな要因の一つがこのプログラムでした。異文化を体験的に理解し、実際に調査活動を行いながら学びを深めることは、自分にとって大変有意義であり、常に新しい挑戦を求める姿勢とも合致していると考えました。

A2：フランスのファッション業界と社会問題をテーマに、リサイクルの取り組みや消費者意識に関する調査を進めています。調査内容をレポートにまとめ、英語でのプレゼンテーションに向けて計画的に研究を進行中です。平日はトラムで学校に通いながら調査活動に取り組んでいます。休日には美術館や観光地を訪れて多様な文化に触れ、リフレッシュすると同時に新たな学びや視点の広がりにも繋がっています。

A3：フランスでの生活を通じて、使い捨てが少なく、環

境配慮が日常に根付いている点に強い印象を受けました。ファッション業界においても同様に、服や靴のリサイクルが盛んであることや、法律により売れ残り商品の廃棄が禁止されているなど、国を挙げて積極的に取り組んでいる姿勢を実感しました。さらに、外国籍の友人との出会いを通じ、多様な文化、コミュニケーションを体験して、多方面から学びを深めています。



福島高専のキャリア教育

本校では、本科5年生の就職活動に向け、学年毎にキャリア教育を計画・実施しています。ご家庭でも、お子様の興味や職業観、仕事を通して生まれる人とのつながりが人生を豊かにすることについてお話しするきっかけとしていただければ幸いです。

1年生：「キャリア探求」

学校生活を通して、自己能力の適性を理解する。キャリアプランニングを正しく理解する。

2年生：「ジョブカードを用いた自己理解」「OB／OGによるキャリア講演会」等

自己理解と自己受容。望ましい勤労観・職業観を育成する。

3年生：「進路相談会（12月）」「エントリーシートの書き方・面接講座」等

環境理解・職業理解を進める。進路実現のための将来設計。

4年生：「インターンシップ」「面接講座」

自己理解の深化。社会的移行の準備。

進路相談会イメージ
（R6年度実施イベント）



インターンシップ協力企業等一覧 ご協力に感謝申し上げます

機械システム工学科

B-Bridge.International,Inc.
ENEOS株式会社川崎製油所
SIAM FURUKAWA CO.,LTD.
青木あすなる建設株式会社
旭化成株式会社
アトックス株式会社
出光興産株式会社千葉事業所
株式会社JERA
株式会社LIXIL
株式会社情報技研
株式会社田中貴金属グループ
株式会社タマディック
株式会社トップエンジニアリング
株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング
株式会社フェニックスエンジニアリング
キャノンマーケティングジャパン株式会社
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
国立大学法人東北大学
コニカミノルタ株式会社
サントリーホールディングス株式会社
新明和工業株式会社
ダイキン工業株式会社
ダイダン株式会社
東亜石油株式会社
日本原燃株式会社
富士フイルム株式会社
三菱重工機械システム株式会社
三菱重工株式会社
ムラテックCCS株式会社
ユニ・チャームプロダクツ株式会社

電気電子システム工学科

B-Bridge.International,Inc.
CTCテクノロジー株式会社
JFEスチール株式会社
JX金属株式会社
SIAM FURUKAWA CO.,LTD.
オムロン フィールドエンジニアリング株式会社
株式会社HEXEL Works
株式会社JR東日本メカトロサービス
株式会社インソースマーケティングデザイン
株式会社ヴィッツ
株式会社カイジョー
株式会社コジマプラスックス
株式会社佐藤製作所
株式会社トップエンジニアリング
株式会社ビーネックスソリューションズ
キャノンマーケティングジャパン株式会社
京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社
神戸アドテック株式会社
ザイマックスグループ
ダイキン工業株式会社
東芝コンピュータテクノロジー株式会社
トーテックアメニティ株式会社
日鉄ケミカル&マテリアル株式会社
丸善石油化学株式会社
リニューアブル・ジャパン株式会社
レンゴー株式会社

化学・バイオ工学科

B-Bridge.International,Inc.
CHEMIPAZ株式会社
JNC石油化学株式会社

SIAM FURUKAWA CO.,LTD.
あすか製薬株式会社いわき工場
一般財団法人光科学イノベーションセンター
大阪油化工業株式会社
花王株式会社
株式会社アルビオン
株式会社クレハ
株式会社ケミクレア
株式会社田中貴金属グループ
株式会社常磐植物化学研究所
株式会社土木管理総合試験所
株式会社日立ニコトランスミッション
原子力規制委員会 原子力規制庁
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
国立大学法人東京科学大学
国立大学法人東京農工大学
国立大学法人長岡技術科学大学
国立大学法人北海道大学
サントリーホールディングス株式会社
城北化学工業株式会社
スソニティジャパン合同会社
第一三共株式会社
大日精化工業株式会社
高砂香料工業株式会社
東亜合成株式会社広野工場
東京都立大学
東レ株式会社
日鉄ケミカル&マテリアル株式会社
日本ゼオン株式会社川崎工場
不二製油株式会社
富士フイルム株式会社
丸善石油化学株式会社
三菱ガス化学株式会社鹿島工場

都市システム工学科

e.TEAM ANA
あおみ建設株式会社
茨城県庁
いわき市役所
鹿島建設株式会社
株式会社IHIインフラ建設
株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング
株式会社田中組
株式会社東栄住宅
株式会社福山コンサルタント
株式会社松下産業
株式会社横河ブリッジホールディングス
極東興和株式会社
国土交通省東北地方整備局
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
国立大学法人筑波大学
国立大学法人長岡技術科学大学
国立大学法人横浜国立大学
さくら構造株式会社
清水建設株式会社
昭和技術設計株式会社
白河市役所
東京電力ホールディングス株式会社
東北電力株式会社
飛島建設株式会社
日本ファブテック株式会社
東日本コンクリート株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
福島県庁

本四高速道路ブリッジエンジニア株式会社

ビジネスコミュニケーション学科

B-Bridge.International,Inc.
アクモス株式会社
いわきFC
いわき芸術文化交流館アリオス
いわき市役所
エリクソン・ジャパン株式会社
株式会社PTOK
株式会社LIXIL
株式会社あさひ (サイクルベースあさひ)
株式会社エニバ
株式会社協振技研
株式会社タカキュー
株式会社ニューメディア
株式会社ネットブレインズ
株式会社ハニーズホールディングス
株式会社ファイントゥディインダストリーズ
株式会社ワールドウィングエンタープライズ
税理士法人 常陽経営
チェンベト投資株式会社
日本ファブテック株式会社
はるかぜ税理士法人河井事務所
福島県商工会連合会浜通り広域指導センター

専攻科

DIC株式会社
アステラス製薬株式会社
アルプスアルパイン株式会社
いわき市役所
株式会社アミーゴ
株式会社アルビオン
株式会社伊藤農園
株式会社奥村組
株式会社クレハ
株式会社建設技術研究所
株式会社ハニーズホールディングス
株式会社日立パワーソリューションズ
株式会社復建技術コンサルタント
キャノンシステムアンドサポート株式会社
霧島酒造株式会社/霧島ホールディングス株式会社
国立研究開発法人物質・材料研究機構
国立大学法人東北大学
国立大学法人広島大学
清水建設株式会社
城北化学工業株式会社
大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構
ダイキン工業株式会社
高砂熱学工業株式会社
中外製薬工業株式会社
東亜石油株式会社
東京電力ホールディングス株式会社
東芝エネルギーシステムズ株式会社
独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構
西日本旅客鉄道株式会社
日本製鋼所M&E株式会社室蘭製作所
日本ファブテック株式会社
はるかぜ税理士法人河井事務所
東日本旅客鉄道株式会社
福島県庁
三菱ガス化学株式会社鹿島工場
ルアーブル技術短期大学



校内体育大会



9月29日(月)・30日(火)、秋晴れのもと校内体育大会が盛大に行われました。29日は心配な空模様でしたが、30日は爽やかな秋晴れとなりました。

競技は、バレーボール、サッカー、ドッジボール、バドミントン、バスケットボール、綱引き、ソフトボール、学科対抗リレーの8種目が行われました。学年優勝、総合優勝を目指し、白熱した戦いが繰り広げられました。

学年ごとでは、1、2、4年生は機械システム工学科、3、5年生は都市システム工学科がそれぞれ優勝し、総合優勝は機械システム工学科となりました。

本大会は、体育大会実行委員長の加藤大成君(4年機械システム工学科)を中心とした実行委員会が企画・運営を行い、各クラス体育委員と関係クラブの協力のもと、クラス内での絆を深めるイベントとなりました。

実行委員長コメント



皆さん、こんにちは。今年度の体育祭実行委員長を務めさせていただきました、4年機械システム工学科の加藤です。前夜に雨が降っていましたが、無事に晴れのスケジュールで行うことができよかったです。昨年度、雨天により行えなかった競技も今年度はすべて行うことができました。2日間にわたり、どの競技でも仲間と協力して全力で取り組む姿が多く見られ、会場全体が一体感に包まれていました。特に、学科対抗リレーでは仲間と協力する姿を見ることができました。走者だけでなく、応援者も含めたチーム全員で一丸となっていたことを運営側としてとてもうれしく感じました。1人1人が自分らしさを発揮し、笑顔で思い出に残る体育祭となったことを大変うれしく思います。また、大きな怪我もなく無事に体育祭を終えられたことをうれしく思います。体育祭の運営に携わってくれた全員による結果です。来年度の体育祭も楽しみにしています。お疲れ様でした。



第61回東北地区高等専門学校体育大会

■陸上競技

(男子)	
学校対抗	第2位
100m	渡部 旭 (5T) 第1位
800m	木村凌太郎 (5T) 第1位
〃	草野 航輝 (3M) 第2位
1500m	草野 航輝 (3M) 第1位
〃	木村凌太郎 (5T) 第2位
〃	草野 海成 (1E) 第5位
5000m	佐藤 幹央 (5M) 第3位
〃	吉田 翔太 (3B) 第7位
110mH	渡部 旭 (5T) 第1位
3000mSC	草野 海成 (1E) 第2位
〃	松崎 晃大 (2E) 第4位
4×400mR	(馬上、木村、草野航、渡部) 第2位
走高跳	松崎 史弥 (2M) 第7位
走幅跳	馬上 公佑 (4E) 第2位
〃	松崎 史弥 (2M) 第8位
三段跳	馬上 公佑 (4E) 第1位

(女子)	
学校対抗	第1位
100m	渋谷 柚那 (3C) 第4位
〃	渋谷 愛未 (1B) 第5位
〃	三部 天花 (4C) 第6位
800m	渋谷 柚那 (3C) 第2位
〃	三部 天花 (4C) 第5位
110mH	渋谷 愛未 (1B) 第1位
4×100mR	(渋谷愛、遠藤、渋谷柚、三部) 第1位
走高跳	道幸 玲奈 (1T) 第2位
走幅跳	遠藤こはる (2B) 第1位
〃	佐藤 璃佳 (5B) 第4位
砲丸投	道幸 玲奈 (1T) 第2位
やり投	國井 杏夏 (5B) 第1位

■サッカー

1回戦	福島 2 - 2 鶴岡 (PK 3 - 1)
2回戦	福島 4 - 1 秋田
決勝戦	福島 0 - 2 八戸 第2位

■バドミントン

(男子)	
ダブルス	吉田 侑太 (3C) 第2位
シングルス	新妻優之介 (2C) 第3位
〃	吉田 侑太 (3C) 第4位
(女子)	
団体戦	第2位
ダブルス	永井 愛乃 (2B) 第2位
〃	堀越 万由 (2C) 第2位
シングルス	大石 愛陽 (4T) 第1位
〃	永井 愛乃 (2B) 第3位

■ソフトテニス

(男子)	
団体戦	第2位
ダブルス	初瀬 瑛亮 (1C) 第3位
〃	渡辺 獅士 (1C) 第3位

(女子)	
ダブルス	原田 千歳 (2B) 第2位
〃	阿保緋衣侶 (2B) 第2位
〃	高崎ひなた (3C) 第3位
〃	西澤 里紗 (3B) 第3位

■バレーボール

(男子)	
予選リーグ	福島 2 - 0 仙台広瀬
〃	福島 2 - 0 秋田
決勝トーナメント	
準決勝	福島 2 - 0 八戸
決勝	福島 2 - 0 仙台名取 第1位

(女子)	
予選リーグ	福島 2 - 1 鶴岡
〃	福島 2 - 0 仙台名取
決勝トーナメント	
準決勝	福島 0 - 2 八戸 第3位

■卓球

(男子)	
団体戦	第2位
シングルス	清野 雅仁 (4M) 第1位
(女子)	
団体戦	第3位
シングルス	永山 和奏 (3C) 第3位

■柔道

(男子)	
個人戦73kg級	八巻 龍成 (2C) 第1位
(女子)	
個人戦52kg級	関根 史織 (2M) 第1位

■硬式野球

福島 5 - 10 鶴岡	
--------------	--

■バスケットボール

(男子)	福島 47 - 86 仙台名取
〃	福島 58 - 73 八戸
(女子)	福島 36 - 51 仙台名取
〃	福島 58 - 33 八戸
〃	福島 46 - 58 秋田

■水泳

(男子)	
学校対抗	第1位
50m自由形	松本 夢空 (2T) 第1位
100m自由形	松本 夢空 (2T) 第1位
〃	丹野 湊斗 (4C) 第6位
200m自由形	渡辺 周空 (2M) 第4位
〃	丹野 湊斗 (4C) 第5位
400m自由形	西山 遙人 (4M) 第3位
800m自由形	重村 台知 (4M) 第5位
〃	根本 琉誠 (2T) 第6位
〃	小林 幸裕 (3B) 第7位
100m背泳ぎ	渡邊琥太郎 (3B) 第2位
200m背泳ぎ	渡邊琥太郎 (3B) 第1位
100m平泳ぎ	草野 加偉 (2M) 第3位
〃	酒井 優磨 (4M) 第4位
200m平泳ぎ	草野 加偉 (2M) 第3位

200m平泳ぎ	酒井 優磨 (4M) 第4位
〃	小林 幸裕 (3B) 第7位
100mバタフライ	吉田 遙人 (1C) 第1位
〃	丹野 智晴 (3M) 第2位
〃	渡辺 周空 (2M) 第5位
200mバタフライ	吉田 遙人 (1C) 第1位
〃	丹野 智晴 (3M) 第2位
200m個人メドレー	西山 遙人 (4M) 第1位
4×100mフリーリレー	(松本、吉田、西山、渡邊) 第1位
4×200mフリーリレー	(吉田、西山、丹野智、渡邊) 第2位
4×100mメドレーリレー	(渡邊、酒井、吉田、松本) 第1位

(女子)	
学校対抗	第2位
50m自由形	佐藤 沙華 (1T) 第1位
100m自由形	佐藤 沙華 (1T) 第1位
〃	千代窪 茉佑 (1B) 第6位
200m自由形	平山 亜美 (3B) 第1位
50m背泳ぎ	平山 亜美 (3B) 第1位
100m平泳ぎ	南 花林 (3T) 第4位
〃	伊東 優希 (3B) 第5位
200m平泳ぎ	南 花林 (3T) 第1位
50mバタフライ	大谷 倫世 (3C) 第1位
4×50mフリーリレー	(佐藤、平山、千代窪、伊東) 第2位
4×100mフリーリレー	(佐藤、平山、千代窪、大谷) 第2位
4×50mメドレーリレー	(平山、南、佐藤、大谷) 第2位

■テニス

(男子)	
団体戦	第3位
シングルス	赤津陽一郎 (2T) 第3位
ダブルス	渡邊美都輝 (2T) 第3位
〃	紺野 陸翔 (2C) 第3位
〃	赤津陽一郎 (2T) 第3位
〃	小松 厚太 (3B) 第3位

(女子)	
団体戦	第1位
シングルス	鈴木 聖奈 (5B) 第2位
ダブルス	大内 香乃 (1B) 第2位
〃	鈴木 聖奈 (5B) 第2位
〃	松本 和香 (2B) 第3位
〃	大谷 舞奈 (2B) 第3位

■剣道

(男子)	
団体戦	第3位
個人戦	猿田 想生 (3C) 第2位
〃	松本 蒼大 (1T) 第3位
(女子)	
団体戦	第2位

第60回全国高等専門学校体育大会

■陸上競技

大分高専（大分スポーツ公園クラスス
ドーム大分）
（男子）

学校対抗 第7位
800m 草野 航輝（3M）第5位
1500m 草野 航輝（3M）第2位
〃 木村凌太郎（5T）第3位
110mH 渡部 旭（5T）第5位
三段跳 馬上 公佑（4E）第6位
（女子）

800m 渋谷 柚那（3C）第7位
走幅跳 遠藤こはる（2B）第2位
4×100mR
（渋谷愛、遠藤、渋谷柚、三部） 第5位

■バドミントン

熊本高専八代キャンパス
（八代トヨオカ地建アリーナ）
（男子）
ダブルス 吉田 侑太（3C）
新妻優之介（2C）

ベスト8
（女子）
ダブルス 永井 愛乃（2B）
堀越 万由（2C）

ベスト8
シングルス 大石 愛陽（4T）
ベスト8

■ソフトテニス

熊本高専熊本キャンパス
（パークドーム熊本）
（男子）
団体戦 予選敗退

ダブルス 初瀬 瑛亮（1C）
渡辺 獅士（1C）
1回戦敗退

（女子）
団体戦 1回戦敗退

ダブルス 原田 千歳（2B）
阿保緋衣侶（2B）
1回戦敗退
〃 高崎ひなた（3C）
西澤 里紗（3B）
2回戦敗退

■バレーボール

鹿児島高専（サンアリーナせんだい）
（男子） 予選敗退

■卓球

有明高専（大牟田市総合体育館）
（男子）
団体戦 予選敗退
シングルス 清野 雅仁（4M）
予選敗退

■柔道

北九州高専
（第一警備スポーツセンター戸畑）
（男子）
個人戦73kg級 八巻 龍成（2C）第2位
（女子）
個人戦52kg級 関根 史織（2M）
2回戦敗退

■水泳

熊本高専熊本キャンパス
（鴨池公園水泳プール）
（男子）
50m自由形 松本 夢空（2T）第3位
100m背泳ぎ 渡邊琥太郎（3B）第8位
200m背泳ぎ 渡邊琥太郎（3B）第2位

100mバタフライ
吉田 遥人（1C）第2位
〃

丹野 智晴（3M）第7位
200mバタフライ
吉田 遥人（1C）第2位

〃
丹野 智晴（3M）第5位
200m個人メドレー
西山 遙人（4M）第4位
4×100mメドレーリレー
（渡邊、酒井、吉田、松本） 第4位

4×100mフリーリレー
（松本、吉田、西山、渡邊） 第7位
（女子）
50m自由形 佐藤 沙華（1T）第8位

■テニス

北九州高専（パークドーム熊本）
（男子）
シングルス 赤津陽一郎（2T）
1回戦敗退

（女子）
団体戦 第3位
シングルス 鈴木 聖奈（5B）
1回戦敗退

ダブルス 大内 香乃（1B）
鈴木 聖奈（5B）
ベスト8

■剣道

有明高専（大牟田市総合体育館）
（男子）
個人戦 猿田 想生（3C）
2回戦敗退
〃 松本 蒼大（1T）
1回戦敗退

第71回福島県高等学校体育大会

■陸上競技

（男子）
800m 草野 航輝（3M）
準決勝敗退

1500m 草野 航輝（3M）第10位
走幅跳 松崎 史弥（2M）
予選敗退

（女子）
400m 渋谷 柚那（3C）
準決勝敗退
800m 渋谷 柚那（3C）
準決勝敗退

走幅跳 遠藤こはる（2B）第14位

■バドミントン

（男子）
学校対抗 2回戦敗退
ダブルス 阿部 優哉（2M）
藁谷 優雅（2E）

2回戦敗退
〃 吉田 侑太（3C）
新妻優之介（2C）
3回戦敗退

シングルス 阿部 優哉（2M）
2回戦敗退

シングルス 新妻優之介（2C）
2回戦敗退
〃 高橋 幸汰（3E）
1回戦敗退

（女子）
学校対抗 2回戦敗退
ダブルス 永井 愛乃（2B）
堀越 万由（2C）

3回戦敗退
シングルス 永井 愛乃（2B）
2回戦敗退

■ソフトテニス

（男子）
団体戦 1回戦敗退
ダブルス 初瀬 瑛亮（1C）
渡辺 獅士（1C）
1回戦敗退

〃 太田 仁志（2B）
中平 麗斗（2B）
1回戦敗退

〃 渡邊 凜人（3M）
千葉 旺来（2C）
1回戦敗退
（女子）

団体戦 1回戦敗退
ダブルス 高崎ひなた（3C）
西澤 里紗（3B）
1回戦敗退

■バレーボール

男子 1回戦敗退

■バスケットボール

女子 1回戦敗退

■卓球

（男子）
学校対抗 2回戦敗退
シングルス 鈴木 壱斗（2T）
2回戦敗退

（女子）
学校対抗 2回戦敗退
ダブルス 永山 和奏（3C）
仲村 香穂（3B）
1回戦敗退

シングルス 永山 和奏（3C）
ベスト32

■水泳

（男子）
総合 第6位
50m自由形 松本 夢空（2T）第7位

◆ 学生の活躍 — 課外活動等の結果 —

100m自由形 松本 夢空 (2T) 第7位	4×200mフリーリレー (吉田、渡辺、丹野、渡邊) 第6位	個人戦 橋本 拓真 (3E) 予選敗退
200m背泳ぎ 渡邊琥太郎 (3B) 第5位	4×100mメドレーリレー (渡邊、草野、丹野、松本) 第5位	〃 木村 悠杜 (3C) 予選敗退
100m平泳ぎ 草野 加偉 (2M) 第12位	(女子)	〃 大河原真紘 (3M) 予選敗退
〃 小林 幸裕 (3B) 第26位	100m自由形 佐藤 沙華 (1T) 第13位	〃 渡邊 瑛太 (2C) 予選敗退
100mバタフライ 吉田 遙人 (1C) 第5位	〃 平山 亜美 (3B) 第22位	(女子)
〃 丹野 智晴 (3M) 第6位	■剣道 (男子)	個人戦 須藤 尊風 (3T) 予選敗退
200mバタフライ 吉田 遙人 (1C) 第3位	団体戦 2回戦敗退	〃 千葉 心陽 (2C) 予選敗退
〃 丹野 智晴 (3M) 第4位	個人戦 七海杏太郎 (3T) 1回戦敗退	〃 下山田千歳 (2C) 予選敗退
4×100mフリーリレー (松本、吉田、丹野、渡邊) 第7位	■弓道 (男子)	
	団体戦 予選敗退	

第78回福島県総合スポーツ大会

■陸上競技 (男子)	■ソフトテニス (男子)	(女子)
走幅跳 町屋 慶明 (専2) 第5位	ダブルス 初瀬 瑛亮 (1C) 渡辺 獅士 (1C) 2回戦敗退	ダブルス 加藤歩乃花 (1E) 根本 歩奈 (1B) 2回戦敗退
■卓球 (男子)	〃 太田 仁志 (2B) 中平 麗斗 (2B) 2回戦敗退	〃 高崎ひなた (3C) 西澤 里紗 (3B) 1回戦敗退
団体戦 1回戦敗退		
個人戦 鈴木 壱斗 (2T) 2回戦敗退		

各協会・連盟主催大会等

■陸上競技	■バレーボール	200m背泳ぎ 渡邊琥太郎 (3B) 予選敗退
◎第78回東北学生陸上競技対校選手権大会 (男子)	◎第37回福島県クラブバレーボール連盟春季選手権大会 男子 第3位	100mバタフライ 吉田 遙人 (1C) 予選敗退
■ソフトテニス	■卓球	〃 丹野 智晴 (3M) 予選敗退
◎第54回ゴーセン杯争奪戦	◎令和7年度全日本卓球選手権大会福島県予選大会 (男子)	200mバタフライ 吉田 遙人 (1C) 予選敗退
ハイスchoolジャパンカップソフトテニス2025	シングルス 鈴木 壱斗 (2T) 2回戦敗退	〃 丹野 智晴 (3M) 予選敗退
福島県代表選考大会 (男子)	■硬式野球	4×100mフリーリレー (松本、渡辺、吉田、渡邊) 予選敗退
ダブルス 太田 仁志 (2B) 中平 麗斗 (2B) 1回戦敗退	◎第107回全国高等学校野球選手権福島大会 1回戦敗退	4×200mフリーリレー (吉田、松本、丹野、渡邊) 予選敗退
〃 初瀬 瑛亮 (1C) 渡辺 獅士 (1C) 2回戦敗退	◎第77回秋季東北地区高等学校野球福島県大会 1回戦敗退	4×100mメドレーリレー (渡邊、草野、丹野、松本) 予選敗退
シングルス 初瀬 瑛亮 (1C) 2回戦敗退	■水泳	
	◎第73回東北高等学校選手権水泳競技大会 (男子)	
	50m自由形 松本 夢空 (2T) 予選敗退	

各種大会・コンテストの結果

■無線通信部	団体戦 予選敗退	◎第17回全国高等学校鉄道模型コンテスト全国大会
◎第72回NHK杯全国高校放送コンテスト福島県大会	個人戦 鈴木健太郎 (3E) ベスト16	モジュール部門 ベストクオリティ賞
創作ラジオドラマ部門 参加	■茶華道部	◎第14回全国高校生地方鉄道交流会 参加
■吹奏楽部	◎いわき学校茶道連盟第57回合同発表会 参加	■分子生物愛好会
◎第43回福島県吹奏楽コンクールいわき支部大会 参加	■演劇部	◎第37回知能ロボットコンテスト2025
◎第92回NHK全国学校音楽コンクール福島県コンクール	◎令和7年度いわき地区高等学校演劇連盟発表会 参加	■有志学生
いわき翠の杜高等学校音楽部と合同演奏	■エネルギー研究会	◎第6回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2025
高等学校の部(フリー参加) 特別参加賞	◎ワールド・グリーン・チャレンジ2025	岐阜高専との連合チーム(Rebounder)
■将棋部	ソーラーカー部門 参加	本選(最終審査)
◎第32回全国高等専門学校将棋大会	■鐵道愛好会	坂野 奏太 (4C) 出場

シリコンバレー・インターンシップ

電気電子システム工学科4年 宮澤 宏遙

私はアメリカ合衆国にあるB-Bridge International, Incでのインターンシップに参加しました。インターンシップの課題は、シリコンバレーで得た知識、経験を使って福島、日本を盛り上げるビジネスプランを考え、発表するものでした。この課題を考えるために有名企業を訪れたり、シリコンバレーで活躍されている日本人の方々にお会いしてお話をお聞きしたりしました。お会いした方々は活動的でポジティブな方々ばかりで、物事の見え方や努力の仕方などとても参考になるお話をお聞きすることができました。実習時間外にはアメリカの文化に触れることができ、文化の違いに驚くばかりでした。たくさんの人とのつながりもでき、本当に得たものが多い貴重な経験となりました。



トビタテ！留学 JAPAN

化学・バイオ工学科3年 森下 葉月

私はふくしまの未来を担うグローバル人材育成事業（トビタテ！留学JAPAN拠点形成支援事業）に参加し、8月10日から8月30日までアメリカ・ヒューストンでエネルギー研修を行いました。福島高専で配布されたチラシをきっかけに、福島県からの支援が充実していることを知り、応募を決めました。福島では原発停止により火力依存が続き、脱炭素の実現が大きな課題です。私は化学的アプローチで解決策を探りたいと考え、脱炭素技術が進むヒューストンを選びました。留学中は現地のクラレ工場や東京ガスの大規模太陽光発電所、ダイキンノースアメリカ、三井物産ヒューストン支店を訪問しました。国際的に展開する企業の現場で、CCUSやRNG発電、グリーンエネルギー導入の最前線を体感し、化学の力が地球規模の課題解決に直結することを実感しました。将来は化学工学を専攻し、福島復興と世界の持続可能な社会に貢献できる技術者を目指します。



マレーシア英語研修

ビジネスコミュニケーション学科2年 藤田 桂奈子

私は8月24日から8月31日の約1週間の間、マレーシア英語研修に参加しました。主にUniversiti Malaysia Sabahという大学で午前中に英語の授業を受け、午後からは大学内の施設見学を行いました。また、大学に通うこと以外でコタキナバルのKobuniという村での食や音楽等の異文化交流が印象に残っています。特に村の方々とダンスを一緒にしたことが楽しかった思い出です。

実際に海外へ行ってみないと分からないことが沢山ありました。今回の研修でマレーシアのマナーや習慣を肌で感じられました。お金に代えられない体験をできたことにとても感謝しています。



新しいことはここから始まる！ 福島高専インキュベーションルームが開設！



インキュベーションとは、英語のIncubation（孵化）に由来し、ビジネス用語で起業家やスタートアップ企業を支援する取組みを指します。本校では、卵を温めて孵化するように学生がアイデアを温め、学生同士あるいは学生と地域企業とのつながりを生み出す場として今年度、本校講義A棟3階に開設されました。インキュベーションルームは、本校学生が、学校や社会に役立つアイデアを仲間と話し合う場、アイデアをブラッシュアップする場としてご利用いただけます。また、おすすめのビジネス関連、ビジネススキルや就職に役立つ書籍を設置しています。興味のある学生は、お立ち寄りください。

利用方法

開室時間 平日 8:30 ~ 17:00

※平日15:00 ~ 17:00は、補助学生が開室、設備利用方法の案内をしています。（試験勉強期間を除く）
※補助学生が不在の時間帯は、学生課で鍵の貸出を受けることができます。

利用予約 基本的に予約不要です。グループ・個人で全体利用する場合は、学生課 学生支援係で予約が必要です。

情報収集のための
インターネット
環境を備えて
います。



半個室ブースがあり、個別での作業が可能です。



ビジネスアイデアや
起業関係の書籍を自由に
読むことができます。

インキュベーションルームは、
講義A棟3階(階段教室の下)
です。

アイデア・モノづくりコンテストを実施しました

3月22日（土）、学生ならではのユニークなアイデアとモノづくり作品を募集する「第2回アイデア・モノづくりコンテスト」を実施しました。

本コンテストは同日開催されたサイエンスフェアの来場者による投票を行い表彰するもので、昨年整備した磐陽テックガレージの利用促進を兼ねて実施されました。

当日は、出展ブースに11件の応募作品が展示され、応募した学生は自身の作品について熱心に説明していました。

本校では、アントレプレナーシップ教育に力を入れ、起業家のような精神や心構えを醸成し、次の時代を切り拓いていく技術者を育てる取り組みを継続してまいります。

第2回 アイデア・モノづくりコンテスト受賞者（学年は令和6年度のもの）

【最優秀賞】

機械システム工学科3年 國井 奏志
(作品名：自作エレキギター)



【技術賞】

機械システム工学科4年 本郷 凌太郎
(作品名：多種多様な機構の設計・製作)

【アイデア賞】

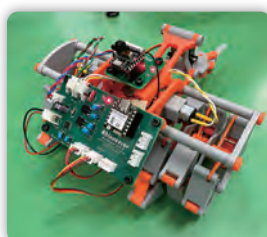
電気電子システム工学科2年 遠藤 怜奈
(作品名：AIを用いた個人情報保護・身バレ防止判定)

【優秀賞】

電気電子システム工学科3年 山本 樹
(作品名：バーチャル福島高専)

機械システム工学科2年 村岡 央翔
(作品名：お茶の泡絶対阻止マシン)

機械システム工学科5年 山野辺 歩真
(作品名：Rhinceros [リノセロス])



大阪・関西万博の特別トークセッションに登壇

経済産業省が開催した大阪・関西万博で、東日本大震災と東京電力福島第1原発事故からの復興をテーマにしたブース「福島復興展示」を出展し、5月24日（土）に行われた特別トークセッション「廃炉、現場のリアルに迫る。」「第2部 廃炉の「これから」」に第9回廃炉創造ロボコン出場チーム（機械システム工学科3年佐々木育奈、2025年3月卒業生・塚田愛由希、山野辺歩真、佐久間広太）が登壇しました。

トークセッションでは、第9回廃炉創造ロボコンの紹介、参加したきっかけなど自分の思いを伝えました。最後には現場で働いている若手の関係者に学生から問いかけをして、進路選択の参考にしていました。



令和7年度「エフレイサイエンスラボ ー秋のワクワク科学実験ー」を実施

9月13日（土）、本校を会場として、福島国際研究教育機構（F-REI、エフレイ）主催「エフレイサイエンスラボ ー秋のワクワク科学実験ー」が開催されました。

本イベントは、小学校4～6年生の親子を対象に、放射線に関する技術や科学実験を通じて、科学の基礎知識や理解を深め、科学への関心を育むことを目的として実施されました。

参加者は二つの班に分かれて実験に取り組みました。科学実験教室では、F-REIの研究者と本校学生が指導者となり、霧箱を使った実験などを通じて放射線について学びました。電気工作実験では、本校教員と学生が指導を担当し、LEDを用いたものづくり「オリジナルLEDを作ろう」に挑戦しました。参加者は自ら手を動かしながら科学の楽しさを体感しました。

参加者からは、「科学にもっと興味を持った」といった感想も寄せられ、充実した時間となりました。

本校は今後もF-REIをはじめとする様々な機関と連携し、地域の人材育成に貢献してまいります。

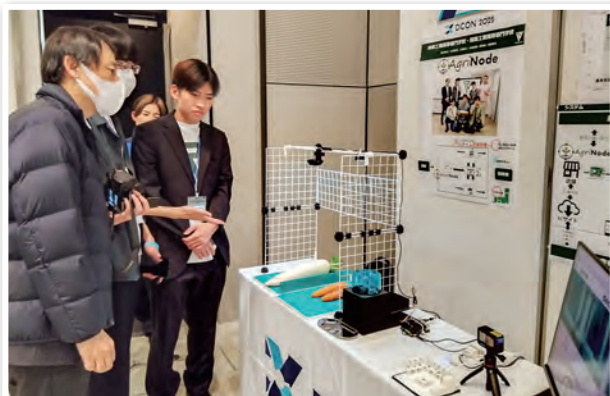


DCON2025本選に本校学生が出場

5月9日（金）～10日（土）に渋谷ヒカリエ（東京都渋谷区）で開催された「第6回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2025（DCON2025）本選」に、本校化学・バイオ工学科4年の坂野奏太さんが福島高専・岐阜高専連合チームの一員として出場しました。

福島高専・岐阜高専連合チーム「Rebounder」は、AI技術を活用し、無人販売や農家が抱える課題の解決を目指すプロダクトを用いた事業を創出しました。

福島高専・岐阜高専連合チーム「Rebounder」は、惜しくも受賞は逃しましたが、一次審査、プロトタイプ審査、二次審査という厳しい道のりを乗り越え、本選までの約8ヶ月間、起業家によるメンタリングや数々の課題に果敢に取り組みました。



新入生歓迎会を実施

昨年に引き続き今年で2回目となる新入生歓迎会が4月26日（土）に開催されました。本校は、学生会・部活動・サークル活動が盛んであり、新入生歓迎会は、主にサークル所属の学生が企画・運営を行っています。

今年の新入生歓迎会は、学生会の小野泰耀会長の挨拶で幕を開けました。続いて、ストリートダンス部のパフォーマンス、オルタナティブサークルなどに所属する学生バンド3組の演奏が行われ、各パフォーマンスに声援が送られました。今年の新入生歓迎会には、新入生以外にも保護者、在校生など150人以上が参加し、1年生からは「先輩たちカッコいい」「楽しかった」との声やパフォーマンスを披露した学生に盛大な拍手が送られました。



本校柔道部員が福島県柔道連盟といわき柔道会から表彰

本校柔道部の学生2名（機械システム工学科2年 関根史織さん、化学・バイオ工学科2年 八巻龍成さん）が、昨年度の全国高等専門学校体育大会で上位入賞を果たしたことを讃えられ、福島県柔道連盟といわき柔道会から表彰状をいただきました。

昨年の8月に北海道函館市で開催された第59回全国高等専門学校体育大会柔道競技において、関根さんは個人戦女子52kg級で優勝、八巻さんは個人戦男子73kg級で準優勝でした。その栄誉を讃えられ、去る3月29日（土）に開催された令和6年度いわき柔道会総会の際の表彰式において、福島県柔道連盟会長といわき柔道会会長からそれぞれ表彰状をいただきました。

5月8日（木）の放課後、関根さん・八巻さん・柔道部顧問の山田教員が、高橋学生主事立ち合いのもと岡本校長へ受賞の報告をしました。



左から 高橋学生主事、八巻さん、岡本校長、関根さん、山田教員

みどり戦略チャレンジ賞を受賞



農林水産省「みどり戦略学生チャレンジ」において、本校学生が「みどり戦略チャレンジ賞」を受賞しました。この大会は、農林水産省が2050年に向けて策定した「みどりの食料システム戦略」の実現を目指し、全国の高校や大学から環境に配慮した様々な取り組みを募集し、審査されるものです。

本校からは、高荒研究室で2年次の授業「ミニ研究」に取り組んだ3名が応募し、受賞しました。3人は、未利用資源を活用した市民参加型の公園づくりを通して、市民が自然のうつろいを感じながら生活できる環境づくりと地域活性化について議論しました。さらに、実際に未利用資源を使って野菜を作り、実験を通して生育状況の確認を行いました。東北地区の多くの農業高校が参加する中、工学系である本校3名が熱心に取り組みました。



- 取り組みテーマ：未利用資源を活用して育てた植物でにぎわいある街をつくる！
- 研究室：高荒智子研究室（都市システム工学科）
- 学生：佐藤響介（化学・バイオ工学科）、草野広汰（都市システム工学科）、坂本旬（都市システム工学科）

いわきビジネスプランコンテストで入賞

2月22日（土）、東日本国際大学で第24回いわきビジネスプランコンテスト公開審査・表彰式が開催され、本科ビジネスコミュニケーション学科3年江尻彩陽さん、専攻科ビジネスコミュニケーション学専攻1年清藤杏加さんが、アイデア部門入賞を果たしました。

【アイデア部門】

- アグリコネクト賞 清藤杏加さん
プラン名「仲間と一緒に農業体験 G-farm (group farm)」
- ネクストブレイク賞 江尻彩陽さん
プラン名「ス旅路！ 空き物件と起業したい人を繋ぎ、初めの一歩を支援する」



大学見本市2025 ～イノベーション・ジャパンへ出展

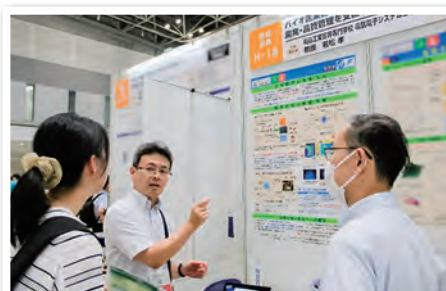
8月21日(木)～22日(金)に東京ビックサイトで国内最大規模の産学連携マッチングイベント「大学見本市2025 ～イノベーション・ジャパン」(JST主催)に、本校の若松 教授と植 教授(電気電子システム工学科)の技術シーズを出展しました。

このイベントは、全国の大学や公的研究機関等から創出された研究成果の社会還元、技術移転を促進すること、及び、実用化に向けた産学連携等のマッチング支援を実施することを目的とするものです。全国の大学等機関から出展される技術シーズ展示をメインに、今回は初の大学認定ベンチャー企業の出展もあり、その他、JST各事業の採択技術の展示、後援機関による連携支援展示等が行われました。

その中で当展示ブースには、多くの方にお越しいただき、技術シーズの紹介や質問、意見交換等が活発に行われ賑わいました。お越しいただいた方には、当技術シーズの魅力をアピールすることができ、産学官の連携を深める契機になりました。

出展した内容は、以下のとおりです。

- 出 展 分 野：健康・医療(展示ブース：H-18)
- 展示タイトル：バイオ医薬品や機能性食品等の開発・品質管理を支援する分析技術
- 展 示 内 容：液中におけるタンパク質などの凝集体の状態(サブミクロンサイズ)を高感度に分析できる計測・解析技術(特開2023--123194/2017--072436)



「F-REI Summer Camp」を本校で開催

8月19日(火)から22日(金)までの4日間、宇都宮大学・福島工業高等専門学校コンソーシアム主催、福島国際研究教育機構(F-REI、エフレイ)委託事業「F-REI Summer Camp」が開催されました。

本プログラムは、高校生・高専生・大学生を対象に、福島県浜通り地域に滞在しながら、科学技術と地域の未来について探究する教育プログラムです。原子力災害を経験した浜通りのまちを舞台に、地域住民や研究者と交流し、科学技術が地域社会の復興や新たな暮らしの豊かさにつながるかを学びました。

3日目と4日目は、本校を会場として活動が行われました。3日目は、最初に本校教員を含む3名の研究者による講義とトークディスカッションが行われ、参加者は科学技術と地域の未来について多角的な視点から理解を深めました。その後、グループごとに地域でのフィールドワークを踏まえたテーマを設定し、プロトタイピングワークショップに取り組みました。「磐陽テックガレージ」の機器を活用しながら、アイデアを形にしていく過程では、本校教員と学生がメンターとして加わり、活発な議論と協働作業が展開されました。



アイデアを形にしていく過程では、本校教員と学生がメンターとして加わり、活発な議論と協働作業が展開されました。

4日目の最終日には、各グループが4日間の学びを成果としてまとめ、地域の課題解決や新しい価値創出につながる提案を発表しました。参加者は互いの発表に耳を傾け、感想を伝え合ったり、自分の考えや気づきを自由に共有したりする姿が見られ、活発な学びの場となりました。



ひだまりカフェ

リラックスをしたいときに…

休み時間やお昼休みなど学生が気軽にほっと一息つけるカフェ。
コーヒーやお菓子などを無人販売しています。

エントランス



中庭



学生ホール



友人との交流に最適な空間

エントランスにはソファがあり、待ち合わせスペースとしても利用できます。
学科や部活動、学習活動の様子などをモニターで紹介しています。
中庭はベンチが設置され、太陽の光が差し込む憩いの場として整備されました。
自動販売機を4台設置しており食堂も近い為、昼休みに談笑している学生が見られます。
昨年12月には、学生による「光と音の祭典」が中庭で開催され、ストリートダンス部や演劇部がパフォーマンスを披露し、大変盛り上がりしました。
学生ホールは、ソファやテーブルがあり飲食が可能で談話も楽しめる空間となっています。読書や勉強をする学生もいます。





studying



Take a break



図書館閲覧室



貴重な時間を有意義に

新着図書や特集コーナー、学科ごとに参考になる本もわかりやすく展示されています。蔵書検索システムOPACにより、簡単に本を探することができます。学生が使用可能なコピー機やパソコン(4台)も完備されています。新聞や雑誌、モノづくり関連などのDVDもあり、幅広く楽しめます。飲食、私語は禁止です。テーブルとイスが76席、ソファもあり、静かに読書や勉強等をすることが出来ます。いわき市のI-TOSS(アイトス)システムと連携しているので、市内図書館の資料の受け取りや返却ができ、とても便利です。

誰でも気軽に利用できる

1人で使用できる窓際の席は、春には桜を鑑賞することが出来ます。4人掛けのテーブルとイスもあり、広くて明るい空間です。多少の談話は可能なのでグループワークにも適しています。飲み物は持込可。平日8:00～18:45、土曜日9:00～16:00まで利用することが出来ます。

多目的学習ルーム



サイレントスタディルーム



一人で集中したいときに

1人1人のスペースで仕切られており、集中したいときに最適です。個々に照明やコンセントが備えられており、パソコンを持ち込むことも出来ます。飲み物は持込可。平日8:00～18:45、土曜日9:00～16:00まで利用することが出来ます。

磐梯町立磐梯第一小学校でドローンプログラミングの出前授業を実施

3月12日(水)、磐梯町立磐梯第一小学校において6年生17名の皆さんを対象にドローンの制御プログラミングの出前授業を実施しました。

磐梯町でのドローンプログラミング講座は2年前から地域の企業との共同研究の形で始まったもので、磐梯第一小学校での出前授業は昨年度に続いて2回目となります。

今回の講座で、児童の皆さんはまずドローンやプログラミングの基礎についての説明を受け、そのあと4～5人のグループごとにScratchでプログラムを組んで「ミッション」の指示を達成するようにドローンを飛行させました。建物を模した構造物の上にドローンを着陸させたり、設定したコース通りにドローンを飛行させたりして、目標とする動作ができると会場では拍手と喜びの声が上がりました。

各グループには本校電気電子システム工学科4年生の補助員が付いて、ドローンの動作トラブルに対応したりプログラムを考える上でのアドバイスをしたりして、児童の皆さんをサポートしました。

当日のようすは磐梯第一小学校のブログでも紹介されています。



いわき市機能別消防団発足式に参加



6月14日(土)、いわき市消防本部で行われた「機能別消防団発足式」に、本校学生と岡本任弘校長が参加しました。

機能別消防団とは、通常の消防団と異なり、特定の活動や時間の許す範囲で参加するもので、SNSを利用した広報活動や防災イベントの運営補助、大規模災害時の避難所運営の支援などで地域防災に携わります。

いわき市内の大学生や専門学校生併せて95名が入団し、うち福島高専からは3名が入団しました。

発足式では、代表学生として都市システム工学科5年の長瀬匠真さんとビジネスコミュニケーション学科5年の荒菜恵さんが参加し、加藤義勝団長より辞令が交付されました。

今後、入団した学生は市の防災訓練のほか、応急手当講習や防災士養成講習などに参加し、火災予防運動や消防団入団促進広報などに従事することです。

いわき市防災士養成講座を開講

本校では、令和4年度より「いわき市防災士養成講座」を開講しております。本講座はいわき市からの委託事業として実施しており、地域における登録防災士の拡充を目的としています。今年度は令和7年8月30日・31日に実施し、60名を超える方々に受講いただきました。講義は本校教員が担当し、実際の災害事例を取り入れながら、防災に関する専門知識を体系的に学ぶ機会を提供しています。これまでに累計150名を超える防災士を輩出しており、地域防災力の向上に大きく寄与しています。今後も本校は、教育・研究活動を通じて地域と連携し、安全・安心なまちづくりに貢献してまいります。





反省からのスタート

教務主事 齊 藤 充 弘

この4月より、教務主事を務めさせていただいております。よろしくお願いいたします。

福島高専に着任してから20年以上経ちますが、諸先輩方より聞かされてきた言葉そのままに、「福島高専は、よい学校である」とずっと思い、過ごしてきました。ところが、4月に開催した始業式において、「福島高専は、よい学校ですか?」、「毎日、楽しいですか?」、「明確な夢や目標はありますか?」とたずねたところ、1,000名を超える学生のうち、どの問いかけにも手を挙げる学生は100名前後という実態にショックを受け、自分の思い上がりを反省することから、私の教務主事としての取り組みがスタートしています。現状の学内の雰囲気を変えるために、学生一人ひとりが夢にむかって一生懸命に取り組み、楽しい学生生活を送ることができるように、まずは「あいさつすること」を呼びかけています。学生、教職員を問わずに福島高専に関わる一人ひとりが自然とあいさつを交わし合い、顔の見える関係性と信頼関係を築きながら、明るい雰囲気の学校を目指して、この一年間は取り組んでいきたいと思っております。ご家庭におきましてもご理解とご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。



近況報告

学生主事 高 橋 宏 宣

本年度学生主事となりました一般教科の高橋です。国語を担当しております。よろしくお願いいたします。

今年度、本校は学生に関わる二つの大きな大会を主管運営しました。7月の東北地区高専体育大会(テニス競技・剣道競技)と、10月の高専ロボコン東北地区大会です。選手、ピットクルーを含むメンバーが活躍し、無事大会を終えることができました。11月1日には磐陽祭が一般公開され、多くの方に来場いただきました。

学生委員会は、学生に対する各種啓発活動も行っています。前期に「SNSマナー講習会」(1年・3年)を行い、後期には2年生と4年生対象の講演会を予定しています。本校にはスクールカウンセラー3名、スクールソーシャルワーカー1名、就職カウンセラー1名がおり、学生の相談に応じていますが、変化の激しい現代社会で学生の安全安心を守るにあたっては学校単独で対応するのが難しい時代となっております。地域の専門機関との連携が欠かせなくなっており、今年度は昨年のチーム福島高専に加え、福島県警、浜児童相談所に協力いただけることになりました。

今後も学生の安心安全を最優先に据え、学生の自立を支援する活動を行って参りますので、保護者の皆様、地域の皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。



寮施設の刷新について

寮務主事 赤 尾 尚 洋

寮務主事を拝命しております機械システム工学科の赤尾です。今年度の磐陽寮は4月に43名の新入寮生を迎え、在寮生183名でスタートしております。

本校が開校してから今年で63年となり、老朽化した施設の刷新が進んでおります。寮におきましても、これまで曙寮(国際寮)新設(R3)、若葉寮(女子寮)改築(R4)、男子浴室改築(R6)、食堂(新食堂棟)改築(R6)と順次改築が進んでおります。そして今年度は青葉寮(男子寮)の改修が進行中で、次年度からは全個室となった新しい寮棟として生まれ変わります。以前は学生寮と言えば二人部屋が基本でしたが、近年の潮流としてプライベート空間の確保のため個室化が進められております。今後の予定としましては、寮棟施設としては最後となる白雲寮(男子寮)の改修を次年度以降に計画です。これからも寮生の安全・安心を基本として、学習環境の整備や快適な生活を支援すべく、施設だけでなく様々なイベントや取り組みを充実させていきたいと考えております。

磐陽寮ではこれからも様々な経験を通じて学生の成長につながるようサポートして参ります。皆さまにおかれましても、今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



専攻科の活動について

専攻科長 小 出 瑞 康

今年度より専攻科長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

今年度は新入生20名が入学しました。2年生と合わせて43名の学生が在籍しています。専攻科

では、本科の時と環境を大きく変えずに学生生活を送り、高度な専門知識や研究能力を身に付けて修了し、学士の学位を得ることができます。このような利点を踏まえ、専攻科への進学を強く志望してくれる学生がいることは大変心強いです。

専攻科は本科のような明確なクラスがないため、専攻科全体として動くことはあまりありません。しかしながら、各コース長が学生生活全般を支え、研究活動については担当の教員が指導に当たっています。先生方のご尽力により学生の学習、研究環境を整えることができ、専攻科を運営できていると実感します。

専攻科・高専を取り巻く環境は変化しており、これまで通りではうまくいかない事もでてきています。これらの問題にコース長とともに対応しつつ、地域社会との連携を強め、学生へより良い学習・研究の機会を提供できるよう取り組んでいきます。

各科の近況〔本科〕



一般教科の近況

一般教科長 吉村 忠晴

一般教科（国語、社会、数学、物理、保健・体育、英語、情報）の教員は、工学系およびビジネス系専門教育の基礎となる専門基礎科目と、エンジニアとして、ビジネスパーソンとして必須となる一般教養科目の授業を担当しています。

また、一般教科の教員は、1年生と2年生の学級担任を務めており、本校に入学した学生が、中学校とは異なる「高専」という新しい環境に順応して、高等学校とは異なる「高等教育機関」の「学生」としての自律（自立）的行動ができるように、サポートやアドバイスを

行っております。

さらに、今年度から学生主事（学生担当副校長）に就任された高橋宏宣先生（国語科）を中心に、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーとも連携して、学生の生活面・メンタル面のサポートをしております。加えて、学生学習支援センター長の宮本拓歩先生（数学科）のもと、1年生と2年生を中心に学業面でのサポートもしております。

なお、この4月に英語担当のCampbell Martin Allen先生と国語担当の照井佳那子先生が、一般教科教員として本校に着任されました。新たな力を得て、一般教科の教員は、学生たちが充実した高専生活を送ることができるように、より一層努力してまいりますので、引き続き皆様方のご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



機械システム工学科の近況

機械システム工学科長 小出 瑞康

本年で学科長2年目となりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

機械システム工学科の本年の活動といたしましては、春・郡山出張・夏・秋のオープンキャンパスを実施いたしました。多くの中学生、保護者の方にご参加いただきましてありがとうございました。また、6月には大阪万博の「高専未来チャレンジ」に30高専のうちの1校として参加しました。テーマは「廃炉ロボット開発を通じた地元復興への取り組み」で、学生が製作した廃炉ロボットの遠隔操縦体験や企業様の協力による原子炉模型の展示を行いました。

した。

5年生の進路状況につきましては、進学希望者18名のうち18名が合格、専攻科希望者4名全員合格となっています。また、就職希望者19名中15名が内定しています（9/19現在）。今後も優秀な学生を育成するために機械システム工学科教員とともに、ご家庭からのご協力・ご支援を引き続きよろしくお願いいたします。



電気電子システム工学の近況

電気電子システム工学科長 伊藤 淳

新入生41名と3年生への留学生1名を迎えた新学期から半年が過ぎ、連日続いた酷暑の夏も終わり、徐々に秋の気配が深まる季節となりました。

新入生はすっかり学校になじみ、元気に活動している様子です。5年生は卒業後の進路を決める進学活動や就職活動のピークは過ぎ、ほぼ進路が決まっている状況です。4年生は企業等でのインターンシップや企業見学を通し、社会人になるための心構えが育成され、自分の将来の進路について意識を高めています。

2、3年生は電気工事士の実技試験に臨むため、放課後等を利用し、積極的に実習に取り組む様子が多く見受けられました。この成果として、多くの学生が電気工事士の資格を取得することができました。また、電気主任技術者への挑戦、TOEICの問題集への自主的な取り組み等、自己の資質向上に努めている姿も見られました。中学生を対象に行われたオープンキャンパスでは、学生が主体となり、デモ実験や学科の概要等の説明を行い、学生が活発に活動していました。学生一人一人が意欲をもって、勉学や課外活動に取り組んでおり、有意義な学生生活を送っているものと確信しています。

本年度から東京大学先端科学技術研究センターとの連携協定が締結され、この一環として、本学科では風力発電分野で、教育や研究面で連携を図ることができました。また、濱崎先生が教授に昇任され、茨城高専から若松先生がおいでとなり、教育と研究でさらなる充実が図られるものと思われます。今後とも電気・電子・情報を3本柱として、教職員一同が教育や研究に取り組んでまいりますので、保護者の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

各科の近況〔本科〕



化学・バイオ工学科の近況

化学・バイオ工学科長 車 田 研 一

昨年度末に内田修司先生、酒巻健司先生が御定年を迎えられましたが本年度も嘱託教員として継続して御尽力いただいているため、昨年度と同様のスタッフ布陣での学科運営を行っています。在学生の皆さんは毎年のようにそれぞれに努力され、それぞれ立派な成果を出されていることは我々としても悦ばしいかぎりです。高等専門学校内では学科が物理的に「学級」の形態をとっているため、日常の活動はいきおい教室単位のものになりがちです。しかし一方で、ほぼ大学生に相当する高めの学齢に応じた個人単位のアクションを核とする教育内容をもカバーする使命があり、年々その重要性が増していることを体感します。そのようなアクティビティの活性化には、学校の塀を越えた、地域を中心とする様々な事業体群の方々との互恵が期待される、具体的かつ実働的なプロジェクトを、たとえ小さくともひとつずつ創りだしていくことが必須です。これは、大きくかつ終わりのない努力が常時求められる課題ですが、我々学校者自身があたりまえのように政府や地域の方々へ支援を求める態度に終始することを誡め、自ずと存続が希求されるような状況を生みだすムーヴを、まずは学科というごく小さなユニットから発信していくことの重要度を認識しています。



都市システム工学科の近況

都市システム工学科長 菊 地 卓 郎

今年度は1年生41名が入学、3年生1名が編入学し、都市システム工学科の学生は206名でスタートしております。

本学科で学んでいることを活かせる高専ならではの課外活動が活発化しており、昨年度出場したコンテストを例に挙げますと、高専デザインコンペティション（構造デザイン部門）、高専インフラテクコン、高専防災減災コンテスト、高専GCON（GIRLS SDGs×Technology Contest）に幅広い学年の学生が参加し、表彰もされています。今年度も出場に向けて、放課後などの時間を使って活動する姿をよく見かけ、さらなる活躍を期待させてくれています。

学生の日々の充実が進路にも表れ、今年度の5年生も就職、進学ともに堅調に決まっており、就職ではライフライン系と呼ばれる電気・ガス・水道、進学では長岡、豊橋技術科学大学へ進む学生が多い傾向となっています。

「都市システム工学科に入学して良かった」と学生が在学中も卒業後も感じられるよう、教員と学生が一緒になって、授業だけにとどまらない活動に励んでまいりますので、今後ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



ビジネスコミュニケーション学科の近況

ビジネスコミュニケーション学科長 湯 川 崇

今年度、ビジネスコミュニケーション学科には新たに1年生41名が入学し、学科全体で194名が在籍しています。学生たちは、学業や課外活動に積極的に取り組み、学びを深めています。

近年、卒業生の中から起業を志す学生が増え、起業への関心が高まっています。この動きを受け、学生たちが将来に向けて多様な選択肢を持てるよう、アントレプレナーシップ教育に力を入れています。授業を通じて、学生たちは新しい価値を創出する力を学び、未来を切り拓くマインドを身につけることが期待されます。

現在は11月に開催される磐陽祭に向けて、各クラスやサークルが準備を進めています。今年も各学年の創意工夫を凝らした出展が予定されており、学科の特色や学生たちの熱意を感じられる場となることでしょう。

一方、5年生は就職・進学に向けた活動が佳境を迎えています。今年も進学希望者が多く、これから文系大学への編入試験が本格化していきます。教職員一同、学生たちが希望する進路を実現できるよう全力でサポートしています。

今後も学生一人ひとりが自分の可能性を広げ、大きく成長できる環境を提供してまいります。引き続き皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

行事予定(後期)

2025年

12月

6日(土) 福島県中学生ロボット競技会
20日(土) 第10回廃炉創造ロボコン
25日(木) 冬季休業開始(1月5日(月)まで)
閉寮

2026年

1月

4日(日) 開寮
6日(火) 授業開始
10日(土) 推薦入試
寮スポーツ大会
14日(水) 専攻科特別研究Ⅱ発表会(2年)
21日(水) 専攻科特別研究Ⅰ発表会(1年)
24日(土)～25日(日)
第19回全国高等専門学校英語プレゼン
テーションコンテスト(東京都)
29日(木)～30日(金) 後期期末試験期間

2月

2日(月)～4日(水) 後期期末試験期間
8日(日) 学力入試
12日(木) 後期授業最終日
13日(金)～17日(火) 補講期間
13日(金) 卒業研究発表会(電気)
18日(水)～24日(火) 再試験期間
16日(月)～17日(火) 卒業研究発表会(ビジコミ)
17日(火) 卒業研究発表会(機械)
18日(水)～19日(木) 卒業研究発表会(化学)
19日(木)～20日(金) 卒業研究発表会(都市)
27日(金) 終業式・寮送別会
28日(土) 閉寮

3月

13日(金) 卒業証書授与式・修了証書授与式
(いわき芸術文化交流館アリオス)

入学試験の日程

専攻科

社会人特別選抜

出願期間	令和7年11月18日(火)～20日(木)
試験実施日	令和7年11月29日(土)
合格発表日	令和7年12月4日(木)
入学確約書提出期限	令和8年1月9日(金)

本科

一般推薦ならびに課題達成型推薦による選抜

WEB入力期間	令和7年12月2日(火)～12月17日(水)
出願期間	令和7年12月16日(火)～12月18日(木)
検査日	令和8年1月10日(土)
判定結果通知日	令和8年1月21日(水)
入学確約書提出期限	令和8年1月28日(水)

学力検査による選抜・帰国子女特別選抜

WEB入力期間	令和7年12月2日(火)～令和8年1月21日(水)
出願期間	令和8年1月19日(月)～1月22日(木)
検査日	令和8年2月8日(日)
合格発表日	令和8年2月18日(水)
入学確約書提出期限	令和8年2月26日(木)

一般推薦ならびに課題達成型推薦による選抜(追試験)

検査日	令和8年1月17日(土)
判定結果通知日	令和8年1月27日(火)
入学確約書提出期限	令和8年2月4日(水)

学力検査による選抜・帰国子女特別選抜(追試験)

検査日	令和8年2月15日(日)
合格発表日	令和8年2月24日(火)
入学確約書提出期限	令和8年3月2日(月)

